

四條畷市総合教育会議（平成29年度第4回）
会議録

四 條 畷 市

1 平成29年11月21日 午後4時 四條畷市役所本館委員会室において、四條畷市総合教育会議を開催する。

2 出席者

市	長	東 修平
教 育	長	森田政己
教育長職務代理者		山本博資
教 育 委 員		原 知雅
教 育 委 員		吉田知子
教 育 委 員		竹内千佳夫

3 事務局出席者

理	事	開 康成
政 策 企 画 部 長		坂田慶一
教 育 部 長		西口文敏
兼教育環境整備室長		
教 育 部 次 長		芝田孝人
兼学校教育課長		
教 育 総 務 課 長		阪本律子
教育環境整備室上席主幹		木村 実
兼学校教育課人権教育・教科指導担当課長		
教育環境整備室課長		奥 大輔
都市整備部上席主幹		藤井道幸
企 画 調 整 課 長		板谷ひと美

4 会議録作成者

企 画 調 整 課	川崎有紀
-----------	------

5 案件

- (1) 南中学校休校に伴う状況について
- (2) 教育大綱の改定に向けた行程について
- (3) 今後の教育行政について
 - ①児童・生徒学力向上3ヶ年計画の策定状況
 - ②新たな施策抽出のための調査研究
 - ③平成30年度当初教育予算の考え方
- (4) 今後のスケジュールについて

<p>政策企画部長</p>	<p>それでは、定刻になりましたので、平成29年度第4回四條畷市総合教育会議を開催させていただきます。</p> <p>本日は、全員のご出席をいただいております。</p> <p>本日は、南中学校の休校に伴う状況について確認を行うとともに、平成30年度当初予算の考え方をはじめ、今後の教育行政に関する各種事項について、市長と教育委員の方々の意見交換の場でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本日の会議において、これまで同様、市広報誌等への掲載のため、秘書広報課職員が写真を撮らせていただきます。ご了承ください。</p> <p>はじめに、市長から、本日検討すべき事項等を含めまして、挨拶を申し上げます。</p>
<p>市長</p>	<p>皆さん、こんにちは。本日も公私なにかとお忙しいなかにもかかわらず第4回総合教育会議にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。</p> <p>後ほど、事務局から話があると思いますが、新たに教育委員も加わっていただきまして、今後ともしっかりと議論を行っていかれるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、まず南中学校の休校に伴う状況について確認を行わせていただき、その後に教育大綱、続いて今後の教育行政に関する各種事項について、最終的には今後のスケジュールについて、という形で進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>政策企画部長</p>	<p>さて、すでにご承知のことと存じますが、9月30日付けで任期満了となった大村前教育委員の後任として、10月1日付けで竹内千佳夫委員を本会議の新メンバーとしてお迎えしておりますので、ご報告申し上げます。</p> <p>竹内委員、一言ご挨拶をお願いします。</p>
<p>竹内委員</p>	<p>ただ今、ご紹介に預かりました竹内でございます。</p> <p>くすのき小学校の校長を最後に38年間の教員生活の後、四條畷小学校で非常勤講師を1年、その後、子ども福祉課、青少年課、そして地域教育課と約8年、今年8月31日まで児童育成アドバイザーとして、ふれあい教室の仕事をさせていただきました。教員生活と合わせますと、46年間という長い間、大好きな</p>

<p>政策企画部長</p>	<p>子どもたちに関わる仕事をさせていただきました。長い教員生活のなかで特に印象に残っていることは、北出小学校の閉校とくすのき小学校の開校に関わったことです。また、教頭時代には寝屋川市に3年間赴任させていただきました、多くのことを学ばせていただきました。</p> <p>これからもこれまでの経験を活かしながら、教育委員という立場で、学力の向上や教育環境整備等、様々な教育課題に対応していきたいと思っております。</p> <p>どうかよろしく申し上げます。</p> <p>ありがとうございました。それでは、市長、進行をよろしく申し上げます。</p>
<p>市長</p>	<p>本日は、机前にお配りさせていただいております次第に記載の案件に基づき、意見交換をさせていただければと思います。</p> <p>まず、案件1件めの南中学校休校に伴う状況について、事務局より報告をお願いします。</p>
<p>教育環境整備室上席主幹</p>	<p>教育環境整備室より、四條畷南中学校休校に伴う諸課題の進捗状況、校区の指定校変更、学校間交流、及び情報発信について、順次ご報告申し上げます。</p> <p>まず、冬服の制服の補助に関しまして、11月下旬に学校を通じて補助に関する事前通知を配布、その後、保護者宛に冬服の10品目についての案内及び申込み券を郵送する予定にしております。こちらが、申込み券の見本となっております。申請につきましては、12月～2月末日までに保護者に販売店へ行ってもらい、補助の申請をいたします。その後、販売店の申請に基づいて市が補助金を振り込みます。夏服については、4月以降に対象の保護者へ案内予定です。</p> <p>次に、通学に関する補助についてです。前回の総合教育会議のなかで、「補助率は54%以上100%にならない範囲とし、議会の皆さんと議論のなかで最終的な補助率を決定する」としておりました。その後、調整のなかで、バス利用、鉄道利用ともに通学においては1ヶ月定期を基本とし、保護者負担を1ヶ月につきバスは500円、鉄道は100円とし、残りを市が負担する、補助率94%といたしました。兄弟関係で2人めがいる場合、また生活保護世帯・就学援助世帯については、補助率を10割、全額市が負担とし、議会の承認もいただいたところでした。</p>

補助の方法については、1ヶ月ごとに、保護者が一度全額を立て替えて支払った後、実績に基づき補助金を各保護者宛に振り込みます。詳細については現在、近鉄バス・JRと打ち合わせを行っており、2月末には、保護者宛に申請に関する案内を配布する予定です。

なお、近鉄バスでは減便を検討しておられましたが、バス通学のニーズが高いというアンケートの結果を基に協議した結果、10月のダイヤ改正で7時台に3本の便を確保することができましたので、ここにご報告します。

次に、通学路の安全対策についてです。防犯カメラにつきましては、現在、危機管理課が設置に向けての準備を進めています。路面標示につきましては、建設課が警察と協議しながら、年度末には整備されるよう準備しております。人的配置につきましては、教育総務課がシルバー人材センターの委託を前提に、年度当初より稼働できるよう調整を行っております。

その他の案件といたしまして、現南中学校の生徒で四條畷中学校に転籍となる、車イスで通う生徒についてです。夏休みに保護者、本人、関係各課や両中学校教員で電動車イスの通学体験を行いました。その結果、本人や保護者との相談のうえ、通学用に電動車イスのレンタル費用を平成30年度予算に要求いたしました。

最後に、クラブのユニフォームについてです。制服の考え方と同様、2着めの購入となる保護者の負担軽減のため、ユニフォーム代金に転籍クラブの部員数を乗じた額を平成30年度予算に要求しております。

続きまして、校区の指定校変更に関してご報告申し上げます。

まず雁屋地区につきましては、平成30年度より南中学校から西中学校に指定校変更となります。現在南中学校に在籍する2年生を対象に、1回めの希望調査を行っております。11月17日に最終調査をかけたところです。

美田地区につきましては、平成32年度より南小学校からくすのき小学校に指定校変更となります。現在、平成30年度入学予定者を対象に、今週には最終調査をかける予定にしています。

中野新町地区については、特に希望する場合、四條畷中学校から西中学校に指定校変更ができるとしています。現在の南小学校6年生及び南中学校1、2年生を対象として、指定校変更希望者は学校教育課の窓口で対応することを保護者へ通知し、現在、受

付をしているところです。

中野本町地区につきましては、平成30年度より中学校は西中学校に、平成32年度より小学校は岡部小学校に、それぞれ指定校変更となります。しかし、転籍に伴う心的負担を考慮し、以下3点のルールを保護者宛に案内文で通知いたしました。

- ①現在四條畷小学校にいる児童については、そのまま四條畷小学校に通い続けることができる
- ②原則兄弟姉妹が違う学校に行かないような個別対応をしていく
- ③四條畷小学校を卒業した児童は、畷中学校に指定校変更を可能とする

現在は平成30年度入学予定者、四條畷小学校に現在在籍する6年生及び四條畷中学校に在籍する1、2年生を対象として、1回目の希望調査を締め切り、その結果の情報を含んだ最終調査を11月下旬に行う予定にしています。

いずれの地区の調査につきましても、学級編製の準備のため、12月15日を最終決定日としています。

なお、前回の総合教育会議のなかで、塚米地区や楠公地区について、西中学校への転籍が認められないことについての説明責任は、教育委員会で果たすということも確認されました。このことにつきましては、8月2日付けで郵送した、総合教育会議の内容を周知するための案内のなかで「なお、指定校変更を希望される方に対して教育委員会が十分な説明を行い、理解を求めます。」とお示ししました。その後、窓口やお電話での対応を前提に、問い合わせがあった場合は丁寧な説明を行い、理解を求めてまいります。

次に、学校間の交流について、ご報告申し上げます。

南中学校と四條畷中学校では、体育大会参加、文化発表会参加、月に一度の定例の再編準備委員会を行っております。

南中学校と西中学校では、クラブ合同練習、合同コンサート、西中学校行事のお知らせ配布を行ったところです。

南中学校と東小学校では、体育大会見学や2学期に授業参観を予定しております。

四條畷小学校、忍が丘小学校、南小学校及び東小学校では、2月に4校の6年生が交流会を実施し、その後は全員で、畷中学校の体験入学を行う予定です。

また、将来を見越して南小学校と東小学校では、1～4年生交流会、四條畷小学校と忍が丘小学校では、1年生交流などを行って

<p>都市整備部上席主幹</p>	<p>います。</p> <p>今後も学校間交流につきましては、順次行っていく予定と聞いております。</p> <p>最後に、保護者や児童生徒への情報発信についてご報告申し上げます。</p> <p>教育委員会からは、8月2日付けで「中学校再編整備に関するお知らせ」を、9月19日付けで補正予算承認後、制服の補助や通学の補助、遠距離化に伴う通学路の安全対策を周知するため、南中学校1、2年生及び南小学校・東小学校6年生の保護者を対象に周知文を発信いたしました。</p> <p>また、10月18日付けで四條畷小学校在籍の1～3年生に対し、校区再編に係る指定校変更について周知するお知らせを配布いたしました。</p> <p>更に10月20日付けで、教育環境整備計画の一部修正した内容について記述したK y o u K a nヘッドラインニュース第12号を発行し、全小中学校への配布及びHPへアップをしたところです。</p> <p>学校からの発信では、学校だよりや学年通信等で交流の様子や再編に係る進捗状況を随時お知らせしているところです。また、中学校から小学校に学校だよりを配布し、小学校で掲示することで、中学校の雰囲気や事前に把握できるような取組みも進めています。</p> <p>また、南中学校においては、11月17日に、転籍の対象となる保護者全員を対象として集まっただき、制服のルールや校則など、転籍先となる学校との打合せで決定した内容について説明する場を設け、理解を求めたと聞き及んでいます。また、四條畷中学校においても、南中学校の保護者を対象とした説明会を開催する予定にしています。</p> <p>今後も学校からの情報発信については、積極的に行うよう指示してまいります。</p> <p>続きまして、南中学校の敷地内活断層調査について、ご報告いたします。</p> <p>現在の状況としましては、活断層調査の先行事例のある他市へ調査についてのヒアリングを行い、また、地質学の専門家である学識経験者と打合せ、協議のうえ、調査方法の選定を行っており、また、正確な活断層の位置を特定するため、ボーリング調査</p>
------------------	---

<p>市長</p>	<p>の箇所数は10箇所、深さは50m程度を想定しており、また、ボーリング調査の状況及び結果を見ながら、必要に応じて、トレンチ調査による地層の確認を行う予定としているため、調査に要する費用は、およそ1,800万円程度を予定しております。</p> <p>なお、学識経験者には、現地にて調査状況の確認等も行っていただけるよう、調整しているところです。調査期間は、3ヶ月から4ヶ月程度を見込んでおります。</p> <p>今後の予定としましては、今年度内に地質調査業者と契約を行い、平成30年4月から調査を行う予定でございます。</p> <p>ありがとうございました。事務局から、以上のとおり報告がありました。これに関して、何かご意見、ご質問、ご提案等々ございますでしょうか。</p>
<p>山本職務代理者</p>	<p>校区の指定校変更の希望調査をされているという報告がありましたが、現在調査中の分についてはもちろん出ないかと思いますが、既に1回めの希望調査が終わっているところがあるかと思えます。大体どれくらいの数があるのか、もしわかればお教え願いたい。</p>
<p>教育環境整備室上席主幹</p>	<p>1回めの調査ですので、これが確定ではないということでご報告させていただきます。</p> <p>まず1点めの雁屋地区の中学校の生徒につきましては、2人が四條畷中学校に進学を希望しています。</p> <p>美田地区につきましては、1年生が6人、来年度入学予定ですが、そのうち4人がくすのき小学校、2人が南小学校を希望されています。</p> <p>続いて、中野新町地区については、基本的に学校教育課の窓口で対応するというのですが、南小学校が事前に行った独自アンケートの結果を聞いておりますので、それを代わりにご報告させていただきます。南小学校の6年生8人のうち5人が西中学校、3人が四條畷中学校を希望されている、ということでございます。</p> <p>中野本町地区につきましては、小学校6年生、また四條畷中学校1、2年生は100%、四條畷中学校を希望されています。最後に四條畷小学校の新1年生につきましては、今のところ20人中2人が岡部小学校へ進学を希望されています。ただ、保留されている方が5~6人いらっしゃいます。</p>

	<p>これらはあくまで途中経過であり、12月15日で決定いたします。</p>
市長	<p>ありがとうございました。その他、ご意見等ございますでしょうか。</p>
教育長	<p>学校間交流についてでございますが、事務局から説明があったと思いますが、これまで特に行事関係のなかで南中学校の生徒と四條畷中学校の生徒とコラボレーションした行事の取組みをしてきました。私も、体育大会や文化学習発表会と行かせていただいて、そのなかで本当にスムーズな形での交流ができたのではないかと感じています。</p>
市長	<p>学校間交流については、私が着任させていただいて、保護者や様々な方と意見交換させていただくなかで、一番声の大きかったことの一つではないかなと思っております。その意味でも、イベントや行事ごと、また、体育大会のような主要な行事でもコラボレーションしていく形でお互いの理解が深まっていくということについては、保護者の方にとっても安心となる材料になっているのかなと私自身感じているところでございます。</p> <p>その他、委員の方々よりご質問等々ございますでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p>
市長	<p>なさそうであれば、私から申し上げます。先ほどの学校間交流も大きな議論の一つではございましたけれども、やはり情報発信の部分です。教育委員会と学校の先生の間で、多少の意識・認識の違いであったり、先生と保護者の方であったり、教育委員会との認識の違いというものが、ややもすると春頃は一定あったことは認めざるを得ないのかなと私としては思っております。しかしながら、教育環境整備室でもご尽力いただいて、学校を通じた情報発信を度々していただいたり、学校だよりに色々な行事を載せていただいているなかで、そこは大きく改善されていった点で、こちらも保護者の方にとって安心につながる材料になっているのではないかと、私としては嬉しく思っているところでございます。この点も、既に11月の末に近づいておりますけれども、教育部の皆さん、あるいは事務局に対して、きめ細やかな情報発信、あるいは可能な限りの学校間交流を引き続きお願いさせてい</p>

	<p>ただけたら、と思っております。</p> <p>加えて、先ほど事務局から説明がございました活断層の調査についてですけれども、私も事前に話を伺わせていただいて、やはり、より確実な調査を行うにあたって、慎重な調査を行う必要があるというところで、費用としては1,800万円という形で、以前、我々が認識していた額よりは増額となるものの、今後これは市議会の皆様のご判断もございしますが、より確実な調査をめざしていくために、一定、仕方のない部分なのかなと思います。そして、更に学識経験者の大学教授の方の意見も伺いながら、万全を期した形で確実な安心安全というところをめざしていく必要を考えれば、必要な費用になってくるのかな、と私としては認識しております。</p> <p>案件1について、私からは以上の点を思っているのですが、他にご意見等ございますでしょうか。</p>
原委員	<p>さきほど市長もおっしゃいましたけれども、学校間交流も含めて、教育委員会の事務方も含めて、本当に丁寧に取り組んでおられると思います。ただ、すべてにおいて、ニーズの多様化により保護者の方々は色々な考えをお持ちで、背景も違うので、一斉に効果が表れるかどうかかわからないですけれども、実際に生活をして見聞きするなかで、確実に浸み渡っていると感じています。</p> <p>何よりもやはり、教育行政視点で何でも進められていると感じておられた方から、学校の先生方も含めて、子どもの立場でとても考えてくださって、色々なことを企画してくださっているということを感じている、という声も聞きましたので、まだまだ努力をしないとイケないと思うのですけれども、実っていくと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今おっしゃった「子どもの立場で」というところでございますけれども、今回、第4回の総合教育会議という形になりますけれども、2回め、3回めもずっと、子どもの立場に立った時にどうか、という形で議論を進めさせていただいてきた経過にあるのかなと私自身思っておりますので、そういう形で少しずつ伝わっているというお話が伺えたのは、私としては嬉しく思っております。ありがとうございます。</p>
教育長	<p>これまで南中学校の休校に伴う諸課題について、教育委員会も</p>

<p>市長</p>	<p>そうですが、市長とこのような形で幾度となく議論を重ねてまいりました。そのベースにあったのは、子どもたちの心的な配慮ということだったと思います。次年度になりますけれども、敷地内の活断層についてもやはり、調査をするならばきめ細かく、そして子どもたちに安心安全を担保された形で、ということでの計画でありますので、教育委員会としましては、是非とも、この予算について市長にもご理解いただいて、進めていただきたいということをお願いするところでございます。</p> <p>おっしゃるとおり、件については途中経過の最中であって、しっかりとした形で、まずは平成30年度の4月を迎えるということを考えていくと、まだまだ配慮していかなければならない点がたくさんあるのかなと思っております。そのなかに、今おっしゃった予算のお話も当然、含まれてきますので、私たちは皆さんからいただいている意見をもとに、市議会の皆様としっかりと話し合いつつ、最良の形で4月を迎えられるように取り組んでまいりたいと思っております。</p>
<p>山本職務代理者</p>	<p>南中学校の問題とは離れてしまうのですがけれども、教育環境整備計画については、本日の議論のなかではここしか発言できないと思いますので、申し上げます。</p> <p>確かに、南中学校の休校に伴う諸課題については、一定の進捗状況があったと思いますけれども、教育環境整備計画が始まった根本からは、やはり小学校の少人数と老朽化の問題が切り離せないと思います。ややもすれば南中学校のことに偏りがちなのですけれども、南中学校の敷地の調査がどうなるかということによって大きく変わってくると思うのですがけれども、私の思いとしては、やはり今の小学校の抱えている問題を一刻も早く解消するという方向に議論が進んでほしいという思いがあるので、我々も総合教育会議で議案の対象として取り上げていただけると、ありがたいなと思います。一刻も早く、できるだけ早くしないと、その分だけ子どもに被害が拡大していきます。子どもの教育環境を考えるのが教育委員会の使命ですので、そういうことについて、今後、色々な話ができればと思います。よろしく申し上げます。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>おっしゃるとおり、やはりまずは安心安全に教育環境を整えることだと思います。これは、先日5,000人を対象に送らせて</p>

	<p>いただいたアンケートのなかで、市民の皆様もそう思われているという結果が如実に出了のかなと私としては思っております。そのアンケートをもとにしながら、そして活断層調査の結果に加えて、今、行っている公共施設の劣化診断、これらすべての情報を総合的に勘案しつつ、山本職務代理者がおっしゃったとおり、なるべく早く進めながらも、しっかりと保護者の方を中心に市民の皆様と対話をしながら意見交換をするというプロセスは、私にとって最も大事なものだとして認識しているので、急ぎながらも丁寧な議論を重ねていって、子どもたちにとって最良な形となるように進めていきたいと思うので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>他に、案件1について何かございますでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p>
市長	<p>それでは案件1の南中学校休校に伴う状況については、以上で終わらせていただきたいと思ひます。</p> <p>続きまして、2点めの教育大綱の改訂に向けた行程について、まずは事務局から説明をお願いします。</p>
企画調整課長	<p>事務局より教育大綱の改訂に向けた行程について、ご説明させていただきます。</p> <p>本市では、平成26年度策定の教育振興ビジョンを教育大綱に位置付け、その内容については、社会情勢や時々の教育環境に合わせた適宜の対応が必要との認識から、これまで毎年度の改訂を重ね、その推進を図ってまいりました。</p> <p>平成29年度に関しては、年度途中となりましたが、7月の総合教育会議のなか、市長と教育委員の皆様の見解交換を経て、8月に改訂を行ったところです。</p> <p>次年度に関しましては、教育委員会事務局から後にご説明を差し上げます、第3期児童・生徒学力向上3ヶ年計画の策定をはじめ、教育を取り巻く背景を踏まえた新たな施策の展開、また、本市が現在、力を入れております包括的な子育て支援策の強化などを予定しておりますことから、平成30年度当初からスタートを切れるように、ということで、本年度内の改訂をめざし、作業に取り掛かる予定とさせていただきます。</p> <p>改定内容に関しましては、前回7月の総合教育会議のなかで、教育大綱をよりわかりやすく、浸透しやすくという観点を踏ま</p>

	<p>え、大綱全体を通じた枠組みについて、次回の改訂時には一定の整理をするということで、とりわけ、カテゴリについても、理念、目標、これらを見据えた整理をしていくということを会議のなかで確認させていただいております。</p> <p>これを受けまして、今後、教育委員会と市長部局の協議のもと、編集作業を行ってまいりたいと考えております。具体には、机上にお配りしております資料、教育振興ビジョン改訂版の構成（素案）の2ページ、施策体系図のとおり、就学前教育、学校教育、生涯学習、ハード整備の分野ごとに、各施策を整理してまいりたいと考えております。</p> <p>また、改訂作業の過程のなか、施策の追加や記載内容等の修正等を適宜行ってまいります。</p> <p>改訂までのスケジュールといたしましては、2月中をめどにお示しする案について、教育委員会内のご意見を取りまとめたいただき、その後、3月に総合教育会議を改めて開催のうえ、意見交換をお願いしたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ただ今、事務局から説明がありました。そのなかで私も、前回の時にやはりこの教育振興大綱は思いの詰まった中身の濃い、素晴らしいものであると同時に、であるからこそ、より多くの市民の方に理解していただきたい、知っていただきたいという意味で、更に見やすくする、整理をしていくということが必要なのではないかなと発言させていただいて、おそらくそれを受けて今のような説明があったのかなと思います。</p> <p>この教育大綱について何かご意見、ご質問等ございましたらお願いします。</p>
<p>市長</p>	<p>先ほど市長がおっしゃったように、前回の総合教育会議のなかで、教育振興ビジョンが、よりわかりやすく、浸透しやすく、ということでのご意見があったと思います。これについては、私も同感でございまして、また、学力向上3ヶ年計画の2期めが今年度で終わることから、次年度から新たな3ヶ年計画を策定していきます。その部分も盛り込んでいくことになりますので、編集を含めまして、今のスケジュールのなかで作業を進めて、2月中にはまとめてまいりたいと思っております。そして、総合教育会議のなかで意見交換をさせていただけたらと考えております。</p>

市長	<p>今、教育長からも同じ方向で、あるいは連携についてのお話がありました。他にいかがでしょうか。</p> <p>今、事務局から机上に配布している新しい整理の仕方ですが、就学前教育、学校教育、生涯教育、ハード整備というわけ方としていきます。私としては、市民の方々にご理解いただくにはわかりやすいわけ方になっているのではないかなと思うのですが、これに関して何かご意見等ございますでしょうか。</p>
原委員	<p>自分自身が就学前教育に携わる現場にいるので、非常に嬉しいことだと思います。教育という観点からは、皆さんご承知のとおり、スタートというものが必ずあって、人間の発達に応じて進めているので、やはり就学前、本当は0歳児からですが、0歳から始まり、私自身は生涯教育の立場ですが、全体的に元気な高齢者が増えているので、こういうふうに人生の流れのような感じで定義付けられると、とてもわかりやすいし、何を1つ1つ見ようかとモチベーションが出てくるのかな、とありがたいことだと思っています。</p>
市長	<p>ありがとうございます。その他、ご意見等ございますでしょうか。</p>
山本職務代理者	<p>私も方向としてはこの方がわかりやすいと思います。従前は教育委員会が一番の課題である学力向上の問題がありましたので、それをとにかく前面に出そうという形で、児童・生徒学力向上3ヶ年計画を前面に出したという部分もありますので、それはそれで委員さんの思いが詰まっているのかなと思うのですが、その部分も3回目を迎えるというなかで、ある一定、定着していると思います。事務局が一生懸命考えて、中身についてはすごく見事にされていると思うのですが、見る時にページが飛んで見にくいので、このように整理していただけると、見やすくなると思います。</p>
市長	<p>ありがとうございます。その他、何かございますでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p>
市長	<p>枠組み等以外の部分についてもご意見があればと思いますが、スケジュール等も含めて、何かご意見ある方はいらっしゃいませ</p>

<p>市長</p>	<p>んでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>それでは案件2の教育大綱の改訂に向けた行程については一定このような枠組み、あるいはスケジュールで進めさせていただくという形で共有させていただければと思います。ありがとうございました。</p> <p>それでは続いて、次第3の今後の教育行政について、意見交換を行わせていただければと思います。次第3のなかで3つに分かれておまして、まずは1点めの児童・生徒学力向上3ヶ年計画の策定状況について、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>教育部次長</p>	<p>第3期四條畷市児童・生徒学力向上3ヶ年計画の策定状況につきまして、ご説明させていただきます。</p> <p>第3期四條畷市児童・生徒学力向上3ヶ年計画につきましては、全国学力・学習状況調査や全国標準学力検査の結果等をもとに、平成27年度から平成29年度までの第2期3ヶ年計画の取組みの効果検証を踏まえて策定中であります。</p> <p>分析の概要としましては、これまでの取組みにより、基礎的、基本的な知識や技能の定着は、着実に向上が図られてきていることが確認できました。しかし、思考力、判断力、表現力の育成が求められる全国学力・学習状況調査の活用問題、いわゆるB問題の調査結果には、小中学校ともに課題があると分析しております。</p> <p>現在、これらの分析を踏まえ策定を進めている第3期計画につきまして、校長会や各小中学校の代表者が集まる学力向上担当者会議で共有を図りながら、児童・生徒の学力向上に効果が望める計画の策定に努めているところであります。</p> <p>配布資料をご覧ください。策定中の第3期四條畷市児童・生徒学力向上3ヶ年計画の概要版(案)を添付させていただきました。</p> <p>第3期計画では、これまでの取組みの良さを継続しながら、各取組みの深化や更なる質の向上を図り、各小中学校における日々の教育活動を改善し、発展させていく方向で検討を重ねているところです。</p> <p>特に、中段左側にあります、「子どもが学びの主体となる授業づくり」や右側の「家庭学習の充実・生活習慣の改善」の取組みにつきましては、第2期計画にも増して、義務教育9年間を見通した子ども</p>

<p>市長</p>	<p>もたちの具体的な成長の姿をイメージして、子どもたちに力をつけていきたいと考えております。</p> <p>そこで、次期学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、その背景にある新しい時代に必要となる育成すべき資質・能力をもとに、四條畷の子どもたちにつけたい3つの力を設定しました。</p> <p>それが上段中央の「学びに向かう力」、「活用できる知識・技能の習得」、「考え判断し表現する力」となります。これら3つの力を育成することを通じて、第2期計画における課題の解消に努めていきたいと考えております。</p> <p>第3期計画をより実行性のあるものとして効果を上げるには、指導主事の指導力向上と学校現場への授業改善等についての指導助言の充実、そして、教職員が余裕をもって子どもたちと向き合い、子ども理解を深め、教材研究に取り組む時間の確保が重要であるとと考えております。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ただ今の事務局からの説明に関しまして、何かご意見等ございますでしょうか。</p>
<p>竹内委員</p>	<p>今の説明のなかで、教師にとって一番大事な仕事と言いますか、確かに授業づくり、教師にとって授業というのは命だと昔から言われており、本分的なことなのではすけれども、そこで私は自分の経験のなかで「わかる」、「できる」ということも大事なのですが、そこに加えて「わかる喜び」が大切だと思います。やはり、できなかったことができた嬉しさや喜びといった感情面に訴えることによって、子どもたちの、また更に頑張ろうという気持ちになっていくと思います。もう一つは一人で喜ぶより皆で喜びを感じることです。例えば体育で跳び箱を跳べなかった子が跳べた、皆と一緒に喜ぶ、というように、喜びの共有化がもっともっと充実したものになっていくのかなと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。確かに今おっしゃった喜びの部分であったり、皆で分かち合う部分というのは、おそらく、事務局から説明いただいた案の、大きく3つに分けたなかでいうと「学びに向かう力」が一番近いところなのかな、と思います。やはり楽しいから、できるから学びに向かっていくというのは、私自身も教育に携わったわけではないですけれども、自分が子どもの時に、やはりわかれば嬉しいというのが非常にあるのかな、と思い</p>

	<p>ます。まだ策定の過程にあるのかと思いますので、引き続きしっかりと取り組んでいただければと思います。</p> <p>先ほどの次第2の教育大綱のところで事務局からありましたとおり、やはり本市として子育て環境のより良い充実を図っていくというところが大目標としてあるなかで、この学力の部分は常々議会の皆様からご指摘をいただいたりとか、あるいは市長部局としての子育て環境を考えていくうえで非常に重要になってくるのかなと思います。詳細には次の、平成30年度当初予算のところでお話しできればと思いますけれども、しっかりとした3ヶ年計画にしていくためにも、当然、予算がかからない形のアイデアであったり工夫という部分もさることながら、必然的に予算が伴うようなことも出てくるのかなと思いますので、そこは、より密な形で協議、意見交換をさせていただきたいと、私としては思っております。</p> <p>特に最後、事務局から話がありました、先生の時間の確保というところは、最近の社会情勢からして非常に取り沙汰されているところになるかと思います。確かに一見、学力向上と先生の時間の確保というのは、先生の時間の確保ができたからすぐに学力が上がるということにはならないかもしれませんが、時間が確保できるから一人ひとりに向き合う時間が増える、あるいは授業づくりに使える時間が増える、だから学力向上という形ができてくるのかなと思いますので、そのあたりも、より見えてくると、保護者の方にもご理解していただける部分なのかなと私としては思っています。</p> <p>他にこの3ヶ年計画の件について、何かご意見ご質問等あればお願いします。</p> <p>子どもが学びの主体になる授業づくりで、全員参加の授業づくりというところですが、やはり授業に参加して、授業を理解していなければ、自主学習をするにしても家庭での勉強につながらない。やはり先生方も今頑張っていただいているのですが、授業を楽しく受けることができる、授業に参加してわかる、わかったからやはり勉強が楽しい、というようなつながりからの自主学習へのつながり、それが9年間の学習の取組みにもまた、生きてくるのではないかなと思いますので、更に先生方のご尽力に期待したいと思います。</p>
吉田委員	
市長	ありがとうございます。

<p>教育長</p>	<p>児童・生徒学力向上3ヶ年計画は今から6年前に始まりまして、その時の柱は4つございました。その当時はまだ授業づくり、そして家庭学習の充実、生活習慣の改善、フォローアップの取り組みとしながら、横並びで小中連携一貫教育というものを進めてきました。第2期では授業づくりをメインとして、残りの3つの柱を補完するような形で進めてきたわけです。</p> <p>先ほど事務局から説明があったとおり、一定の成果、いわゆる上昇傾向の結果を示しているのですけれども、課題として挙げた活用の部分、全国学力・学習状況調査のなかではB問題という問題を読み取って、それをどのように答えていけば良いかという部分にまだまだ課題があると感じております。次期学習指導要領もにらみながら、小学校1年生から中学校3年生までの9年間を見通した取組みを、更に、今まで取り組んできたことを深化して進めていくということで、今このような形で、概要版をお示しさせていただいたところです。</p> <p>先ほど市長も「学びに向かう力」について少し触れていただいたと思いますが、教員時代からずっと、子どもたちに望むことというのはやはり、自分に定められた命を大事にするということです。そして、どのように社会あるいは世界と関わって、より良い人生を送っていくかが大事だと思います。そのために、何を理解して、何ができるか、あるいはそのできることをどう使っていくのか、という3つの部分をまとめたものが、資料にある「学びに向かう力」、「活用できる知識・技能の習得」、「考え判断し表現する力」となります。これは、また表現を変えて、次期学習指導要領にも打ち出されておりますので、我々はその方向と同じような形で学力向上3ヶ年計画として進めていきたいと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>重ねて私から申し上げる必要もないと思うのですが、おっしゃった活用問題、B問題に、特に注力と言いますか、更に力を入れていくというのは当然ながら、やはりA問題の底上げという部分も非常に重要になってくるのではないかと思います。私の理解だと、基本的に全国平均をめざしていくというのは根本としてあるのかなと思います。近づいているという成果を得ているので、更にそれを深めていって、まずは基礎的な部分がしっかりわかるということがあってのB問題、活用問題かなと思いますの</p>

<p>市長</p>	<p>で、言うまでもないところですが、それはしっかりと計画に反映されるということを願っております。</p> <p>その他に3ヶ年計画につきましてご質問等ございますでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>それでは、続いて2点めの新たな施策抽出のための調査研究について、まずは教育長からお考えをお聞かせいただければと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>先ほどと重複する部分もあるかと思いますが、市長からもありました、まず、最近特に話題になっている大きな課題といたしましては、教員の働き方改革であろうと思います。私は、これについてはできることから直ちに進めるべきだという考えをベースに持っております。そして教員の勤務を軽減することによって、教員の質の向上につながり、ひいては、学校が子どもにとって今より良い学びの教育環境になっていくというように考えますので、教員の働き方改革を、できることから直ちに進めていただければと考えております。これが1点めでございます。</p> <p>2点めといたしまして、働き方改革にも伴うのですが、改革を行うためにも、できれば先生の校務用PCの導入、それから校務用PCに関係して、統合型校務支援システムというものがございまして、このソフトを導入していく。しかしこれはやはり予算が伴うものでございまして、次年度は試験的にどこかの学校にこれを導入して、働き方改革につながるICT化を図っていきたいと思っております。そして、次期学習指導要領にあります、プログラミング教育の実施のためのICT化も進めていかなければならないと思っております。これも実際にすぐに、という訳にはいかないのですけれども、平成32年度から新しい指導要領となりますので、なるべく次年度から意識を集中させていきたいと思っております。</p> <p>3点めが、英語教育でございます。平成30年度から小学校3、4年生で15時間、5、6年生で50時間の先行実施となります。新教育課程での英語、今まで「外国語活動」と言っていたものが、「外国語活動」は3、4年生、「外国語」が5、6年生、という形になってまいります。本市においても市長が就任当初から英語教育に対して非常にご支援をいただいております。今年度</p>

市長	<p>も本当に多くの子どもたちが英語検定試験に臨みました。教員にもTOEICに参加していただいておりますし、小学校においてはGTECという4技能を測るテストを全小学校で実施しております。これを更に深めて次年度から先行実施となりますので、どのような形で進めていったら良いか、今後とも継続した形で進めていきたいと思っております。</p> <p>最後に読書教育についてです。読書教育というのは、今年10月に、小中学生の主張コンクールから変わりまして、ビブリオバトルを実施したところ、非常に市長も実感していただいたと思いますけれども、本当に良い取り組みだと思っております。その時に市長からご助言をいただきまして、「来年また頑張ってください」ではなく、「今から」ということがありました。確かにそうだと思います。小学校も含めた各学校の読書教育として、子どもたちが、自分が読んだ本を他者にどのように勧めていくか、伝えていくか、そして他者からの質問に対してどのように自分の考えをまとめて答えていくか、非常に表現力を養う意味では大事なところですし、もう一つは読んだ本人が読書を通じてその筆者の考え方、あるいは歴史上の人物、こういったものの考え方と、本を通して交流できるという、まさに今言われている主体的、対話的で深い学びの部分にも通ずるのではないかと思います。こういう意味で、読書教育を来年度も引き続き行っていきたいと思っております。まだまだ他にもございますけれども、4点ほど特に、このような考えを持っております。</p> <p>ありがとうございました。最後に言っていた読書教育については多くの市民の方々に参加していただいて、まちを歩いているときや、あるいはSNS等を通じて、保護者の方や市民の方々から、「あの取り組みは良かったよ」という形でメッセージをいただくことが非常に多く、実際に子どもたちの顔がいきいきしていたというか、本当に先ほどの3ヶ年計画ではないですが、表現する力、本を読もうと向かっていく力、そして本を読むことを通じて知識を蓄積していくと、先ほど説明のあった3つの資質能力すべてが鍛えられる。鍛えられるというか、自ずと発展していくという意味において、これ以上のものはないのではないかと、私も教育長もビブリオバトルをさせていただいて、体感していくなかで強く思いました。</p> <p>今、教育長から大きく分けて4点いただいたのですが、本市が子どもたちにとってより良いまちになっていくために、私</p>
----	--

も考えているところがありますので、説明させていただければと思います。

まず、教育長から説明がありました2点め、3点めのプログラミング教育と英語教育ですが、私たちにとっても、新たな学習項目と言いますか、新しい部分です。英語に関しては従来からありますが、より拡大していくという意味で新しい分野だと思えます。プログラミング教育、英語教育、これはそれぞれ避けて通れない。むしろ私と同世代、あるいは20第前半の世代からいくと、仕事をしていくうえで、なければならぬ時代に近づいていることを実感します。これから、どんどん日本全体の人口が縮小していくなかで、やはりモノを海外に売っていかなければならない。売っていくモノも通常の工業製品から、よりITの進んだものを販売していくとなってくると、この両方の技能は避けては通れない部分かと思うので、このICT教育、あるいは英語教育は、新たな学習項目として、更なる調査、研究を重ねていく必要があるのかなと思っております。

まずこの2点と、それに加えて、教育長が1点めに挙げてくださった教員の働き方改革です。当然やり方であったり、意識を変えていくというところも効果があるとはいえ、教育長がおっしゃったようにPCがあるとか、共通の統合型校務支援システムが使えるという部分の、システムによる時間縮減というところもあると思います。これは基本的に明らかなことではございますが、システムというのは常に大きな費用とのバランスがございまして。しかしながら、私も、全7小4中を伺わせていただいて、職員室もPC室もすべて見させていただいたなかで、なかなか一般企業だと考えられない仕事環境と申しますか、IT化、ICT化が進んでいない現状があり、ショックを受けた部分が一定ございまして。それは別に、四條畷だからというわけではなく、全国どこでも同じような状態なのかなと思っておりますので、私も教育長もその方向性に関しては一致するところかなと思っております。

ただ、この教員の働き方改革というところは、しっかり時間を見出して、生徒一人ひとりに向き合う時間を増やしていくという観点でいくと、従来から国に対しても要望しておりますし、直近においても市議会のすべての会派の方々からもお話しいただいている35人学級を導入していくというのも、やはり調査、研究を進めていかなければいけない案件かなと私としては認識しております。やはり先生一人あたりが抱える生徒の数、児童の数が減れば、それだけ細かく生徒のことを見ていける、あるいは授業づく

	<p>りに専念していける。そういったことを考えていった場合に、働き方改革をするというのであれば、当然これは一緒に考えていかなければならない部分なのかなと思っております。</p> <p>今のもので4点めですけれども、それに加えて、小中連携の部分、先ほど3ヶ年計画の話でもありましたけれども、今まさに小中連携というところが、単純に小学校・中学校の連携を図るものから、施設が近い、あるいは義務教育学校とって、本当の一体型になっているものと、色々な濃度が出てきているなかで、やはり本市として、子どもたちの視点に立った時にどういう型の小中連携が最も相応しいのか、これは議会でもそのようなやり取りをさせていただいておりますけれども、更なる調査、研究を深めていくことが私としては必要かと認識しております。</p> <p>3つの部分、プログラミング教育、英語教育、働き方改革は私としても共通して認識している部分で、更に35人学級の部分であったり、小中連携の部分はもっと調査、研究を進めていくべきかと考えております。</p> <p>以上、教育長と私からお話しさせていただきましたけれども、これについて何かご質問等ございましたらお願いします。</p>
原委員	<p>私学で従事していますので、常々思うのですけれども、義務教育として、保護者感覚で言えば、お金がかからないで当たり前かもしれないという感覚が従前からあって、教育とは、決してお金がかからないものではなく、それは保護者からではなく行政が出さないといけない部分で、投資すれば、すぐではないけれども、必ず多くを生み出すもとだと私は思っています。特に今お聞きしたことで、これから私たちがしなければならないことは、そういう未来を見据えて、これからの子どもたちが10年後、20年後に生きていく社会を見据え、そこで必要な力がつくような教育環境を整えるのは、行政もそうであるし、すべて私たちが努力すべきことではないかと思えます。</p>
市長	<p>おっしゃるとおりだと思います。プログラミング教育も、確かに教科書で見て学ぶことも、当然できると思いますけれども、そこにPCがあって打ち込んで動作するということが、子どもにとって、先ほど竹内委員からあったように「わかる喜び」につながっていくことを考えたら、そういった整備面にお金がかかってくるところは必要になってくると私は思っております。</p> <p>その他、何かございますでしょうか。</p>

山本職務代理者

まず英語教育について、高校入試が既に英語重視の形に変わってきております。だから中学3年生に、スピーチを含めて相当特化した授業をしないと進路指導ができない状況になる。そのあたりは早期に対応していかなければならないのかなと思います。本市は、小学校の外国語活動については、大阪府の試験的な形でモデル校になり、大阪府内の小学校に外国語活動が広がっているということがありますので、是非、それを念頭に、引き続き行ってほしいと思います。

それから、プログラミング教育については、先日、我々も主題にして研修に行っていました。文部科学省は確かに、学習指導要領のなかで、機械を使わなくても。理念として物事の考え方を身につける、というようなことも記述しておりますが、市長もおっしゃったように、機械がないと、実際にはなかなかイメージできない部分があるので、それは早急に対応しなければならないと思います。教育にお金をかけたからといって、一年経ってすぐに結果が出るかといったらそうではないと思います。学力も同様で、フォローアップ教室をしたから次年度に学力が上がるというわけではありません。やはりそういうことの積み重ねが必要だと思います。このICT教育も同様で、ここに投資したからといっても、やはり何年かかからないと効果は表れてこないと思います。そのあたりを含んでいただければと思います。

続いて3番めの働き方改革ですが、ややもすれば働き方改革をすることによって、先生方の負担が増えていくというような改革もあるように聞きます。やり方によって違うと思いますが、それはやはり避けるべきだと思います。基本的には、時間を節約してもらい、その部分を子どもたちの教育に活かしてもらおうというのが働き方改革であって、先生方の勤務時間を減らすという問題ではない。楽をしてもらおうという訳ではなく、余裕を持って、子どもたちに接してほしいというところがありますので、これも費用の問題がありますけれども、やはり働きやすい環境をつくっていただくということで、PCの導入が必要ということかと思えます。実際、学校現場を見させていただくと、時代遅れのソフトを使用されているようですので、そのあたりは早急の問題として出てきているのかと思います。

次に、35人学級については、私としては、もっと減らしてもいいのではないのかなと思っています。35人学級に関しては、市独自で行うには問題点があまりにも多すぎるかなと思います。

	<p>働き方改革の関連で言うと、新しく来られた、市で賄う講師については、大阪府は研修をしません。市で研修をしなければならない。そうすると研修を誰が行うのかというと、現場におられる正規の先生方しかいないということになりますので、現時点では、働き方改革に逆行すると考えられます。これを行うには、大阪府、あるいは国に対して働きかけをし、市独自で行うのではなく、方策を待つというか、早期にそういう方策をとってもらわないといけないと思います。早期導入してしまうと、形だけは35人になって、すごく実行しているようには見えますが、教育の質は明らかに落ちると思います。以上は私の考えですが、早急に国や大阪府に35人学級を制度化してもらおうという方法をとるべきではないかと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。教育長、お願いします。</p>
<p>教育長</p>	<p>市長からお話がありました35人学級について、意見を述べさせていただきたいと思います。このことにつきましては、先ほど市長からもありましたが、市議会の各会派の皆様から35人学級ダブルカウントという形の要望をいただいております。我々も同じように、35人学級については早くから大阪府や国に要望をしてきたところがございます。今後とも引き続き強く、35人学級の実施を求めていくところがございます。山本職務代理の先ほどの件と少し重複するかもしれませんが、そのために本市にとってどのような形でどこまでできるのか、あるいは課題に対し、何か工夫をして導入していくことができるのだろうか。例えば介助員の増員や、あるいは本市には、職種として学校支援員というものがありまして、これは校長がそれぞれの学校の課題に応じた形で職務を命じるというものです。この学校支援員は教員免許を持っている者として順次働きかけておりますので、何らかの形で35人学級に近いような、本市としての独自の施策ができないものかどうか、ということも踏まえて、いずれ35人学級が一日も早く実現できれば、と思っております。そこで、先般お答えさせていただいたように、導入については前向きに研究を進めてまいりたいと思います。そして次年度改訂いたします、教育振興ビジョンに位置付けていきたいと考えております。</p> <p>小中連携につきましては、先ほどの学力向上3ヶ年計画のなかで、9年を見通した取組みということで、今までは、小中連携の一貫教育ということで取組みを進めてまいりました。第3期学力</p>

<p>市長</p>	<p>向上3ヶ年計画で7年めを迎えますので、施設一体型、施設分離型と、色々な方法があろうかと思いますが、本市に応じた形で考えていけたらと思います。先ほどの山本職務代理のお話にあったように、先週我々で文部科学省にまいりまして、小中一貫校、あるいは義務教育学校についての研修を行ってきたところでございます。更に研究を深めてまいりたいと思っております。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>原委員と山本職務代理と教育長からお話をいただきました。実際のところいくとやはり、こちらにおられる5名の教育委員の皆様を含め、教育委員会が構成され、教育行政について責任を持っている、というのが現行の制度と思っております。そういったなかで、私としては、選挙で選ばれた人間として、市民の皆様の声教育委員の皆様と共有するという責務も当然あると思っておりますので、それがこの総合教育会議の場かなと思っております。ですので、教育行政そのものの、めざすべきあり方というのは当然ありながらも、教育委員会としても、保護者の皆様を中心に、市民の方々がどういうふうに思っておられるのか、アンテナを張りつつ、今後の教育行政に臨んでいただきたいというのが、まず申し上げたい部分でございます。</p> <p>そのうえで、原委員からも山本職務代理からも一定、教育に費用はかかるものだと、そして効果はすぐにはなかなか表れてこない、ただし、ご案内のとおり、本市は非常に苦しいなかでやりくりをしていると。そうならばやはり、今日挙げたものすべてをやるというのは、どうしても非常にハードルが高いものになってきます。そのなかでも、子どもの視点に立った時に、限られた予算のなかで、どこに優先付けをしていくのか、というところは、これこそが教育委員の皆様が一番の役割であると思えます。</p> <p>私としては、子育て世代にとってより良い住みやすいまちにしていくということで、平成30年度予算編成方針においても、子育てに関することについては重点配分をするという形になっておりますので、当然、教育は子育てに関することに含まれます。他の施策分野よりは重点配分になるとはいえども、限界がありますので、しっかりと教育委員の皆様で、PCであってもシステムであっても、幼児教育であってもやはり費用がかかってしまうので、そこは緻密な優先順位を付けていただきたいと思いますし、小中一貫も、35人学級についても、研究を深めると同時に、本市にとってどの形が望ましいか、お金がかからない部分の研究を</p>
-----------	---

竹内委員	<p>前に進めていただきたいと思います。</p> <p>他の教育委員の皆様からも何かあれば、と思いますがいかがでしょうか。</p> <p>小中連携の取組みのところで、教育長がおっしゃったとおり、研究視察ということで話を聞いてきたわけでありましてけれども、既に小中一貫校、あるいは義務教育学校が全国に200校近くできあがっているなかで、私が慎重に取り組まなければならない、と思ったことは、不登校や集団づくりというような、いわゆる生徒指導上の解決策にはすごく効果があったけれども、即学力向上にはつながりにくい側面が現時点ではある、と文部科学省の調査官がおっしゃったので、慎重に取り組んでいかなければならないとつくづく感じたところです。</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>確かに、学力向上というのは1、2年で、学校が一つになったからといって効果が出るものではないと私も思いますが、今おっしゃったなかで、不登校という部分でいうと、本市の中学校の不登校の割合は全国的に見たら比較的高いという状況も併せて考えていくなかで、より研究を深めていければと良いのではないかと思います。</p> <p>他に、吉田委員、いかがでしょう。</p>
吉田委員	<p>私は、貧困家庭の子どもさんの学習能力が上がらないというデータが出ているところが気になります。この状況下にある子どもさんは、学習するところが学校しかないと思います。学校と自分の努力でやっていくしかないと思うと、やはり学校の教育環境というのはとても大切だと思いました。皆が平等に学習できる場というものを設けるべきではないかと思います。</p>
市長	<p>そうですね。これはおそらく、なるべく等しく、同じ勉強環境にあるところをめざしていく観点では、おっしゃったとおり、当然、貧困家庭という部分になると、教育委員会組織と福祉部門の連携が必要になってくるのかなと思っておりまして、それはそれでしっかりと考えていかないといけない部分と認識しております。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>この新たな施策抽出の部分で、その他ご意見等ございますでし</p>

<p>市長</p>	<p>ようか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>それでは2点めはこのあたりにさせていただいて、続いて3点めの、平成30年度当初教育予算の考え方について、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>教育部長</p>	<p>それでは、私から教育に関する平成30年度当初予算案の考え方につきまして、ご説明させていただきます。</p> <p>教育委員会では、現在、教育振興ビジョン（教育大綱）に掲げる目標を達成するため、各種取組みを進めているところでありますが、本日は、平成30年度の教育施策のなかで、新規及び拡充予定事業のうち、教育環境整備計画に関する予算を除く主な6事業に絞りまして、ご報告させていただきます。</p> <p>本来、資料をもとにご報告させていただくところですが、現在、予算の編成過程でございますので、配布資料なしでのご報告となりますがご理解のほど、よろしく申し上げます。</p> <p>はじめに、学校における「宿泊事業時の看護師派遣事業」でございます。</p> <p>本事業は、市内小中学校での林間学舎や修学旅行など宿泊行事時に、学校または宿泊先において養護教諭が不在となるため、安心安全な学校体制構築の一環として、看護師を派遣する事業でございます。</p> <p>この取組みにより、学校現場又は宿泊先において、養護教諭または看護師の配置率がすべての日において100%となりますので、児童・生徒の安全が保証され、ひいては、教職員の働き方の改善にも寄与するものと考えております。</p> <p>次に、「統合型校務支援システムの試行導入」と「パソコン教室の機器更改」でございます。</p> <p>まず、統合型校務支援システムについては、多忙化する教職員の環境改善に資する取組みとして行うものであり、平成30年度は、田原小学校と田原中学校の2校をモデル実施校とし、その効果検証を行うものでございます。</p> <p>この取組みにより、校務の効率化が図られ、教職員が児童生徒と向き合う時間の増加につながれば、平成31年度以降、他校におい</p>

でも導入してまいりたいと考えております。

また、「パソコン教室の機器更改」については、小学校の Windows XP のパソコンを更改し、プログラミング教育や、安全にインターネット接続ができる環境を整えるとともに、中学校においても、平成 24 年、25 年度の 2 か年で整備したコンピュータールームの機器を更改するものでございます。

いずれの取組みにおいても、児童生徒の情報活用能力の育成に資する事業であると考えております。

次に、「土曜日フォローアップ教室」についてでございます。

本年度は、一昨年開始したくすのき小学校での教室運営に加え、今年度からは田原小学校においても実施しているところでございます。通いなれた小学校を会場とすることにより、会場校のふれあい教室児童も含め、参加しやすい環境が整いつつあります。平成 30 年度は、これまでの成果を踏まえ、従来の公共施設における会場を移行するのではなく、児童がより参加しやすい環境を整えるためにも、小学校 1 ヶ所を追加するものでございます。

これらの取組みにより、真に学習支援が必要な児童の参加が進むものと考えており、第 3 期の学力向上 3 ヶ年計画の終期となる平成 33 年度には、全国標準学力検査、いわゆる N R T 5 段階分布の「1」と「2」に分布する児童の割合を 5% 減少させたいと考えております。

次に、「ニュースポーツ体験事業」でございます。

ニュースポーツは、子どもから高齢者まで、いつでも、どこでも、だれでも気軽に参加できるスポーツです。

現在、非常勤特別職のスポーツ推進委員の皆さんが市民活動センターを拠点に第 1・第 3 土曜日の夜間に取り組まれています。これまでのソフトバレーボールやキンボールに加え、平成 30 年度は、新たなニュースポーツ用具の購入と施設使用料を予算化し、市民皆様の健康づくりに役立て、今後 3 年間で、市民を対象としたニュースポーツ大会の開催につなげてまいりたいと考えております。

最後に、「学校図書館支援事務」でございます。

この事業は、児童・生徒学力向上 3 ヶ年計画並びに第 2 次子ども読書活動推進計画に基づき、学校における読書活動の推進について、力を注いできたところでございます。

各学校とも創意工夫した取組みを通じて、学校の授業以外で普段

<p>市長</p>	<p>読書をする児童生徒も微増傾向にございまして、これは順次、学校図書館支援員を配置してきた効果の表れでもあると考えております。</p> <p>今後も、教育委員会が進める読書教育の充実に向けて、これらの取組みを他校にも発展させたく、平成30年度は現在の5小1中に1小学校を増やし、平成32年度までには全校に学校図書館支援員を配置して、ネットワーク化を完了させたいと思っております。</p> <p>以上が平成30年度当初予算における主な新規、拡充事業でございます。</p> <p>今後、他の経常的、また臨時的な事業も含め、予算編成段階へと進めてまいりたいと考えております。</p>
<p>教育長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただ今の事務局からの説明に対し、何かご意見等はございますでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>私から1点申し上げます。先ほどの学力向上に関してですけれども、NRTの5段階の分布の1と2、合わせての占める割合は現在全体の30数%でございます。NRTを開始した当初では40%ほどあり、現在、ある程度高原状態になっている部分もあり、ここからあとどれだけということ、5%と出ささせていただいたのですが、30%を切るような形をめざして、この取組みを進めてまいりたいと考えております。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>いわゆる学力低位層の底上げということですね。その他、何かございますでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>ニュースポーツの件なのですが、今ではソフトバレーボールもPTAの保護者や先生方の交流として、毎年、大会が開かれるほどになっています。そういう活動をしていただいているスポーツ推進委員さんは、毎回、大変ご尽力いただいていると思います。このように予算を挙げていただけたら、スポーツ推進委員さんにはとても励みになるし、市民の方たちの、新しいスポーツに取り組む機会にもなると思いますので、是非お願いしたいと思いま</p>
	<p>そうですね。学力も当然大事ですけれども、やはり身体の部分</p>

<p>山本職務代理者</p>	<p>や心の交流という部分でいうと、スポーツというの一番そこに繋がる一つの施策かなと思います。</p> <p>今、事務局から説明いただいたなかで、明らかに2点めのシステムとPCの部分は全体の予算割合としては大部分を占めてくるのかなと思います。今、7小学校で、たしか20台ずつ設置しており、すべてXPという状態で、外部接続はできない状態であると私も認識しております。実際、平成32年度から、触れてわかって、テキストではない形で、プログラミングを学んでもらおうと考えると、やはりPC機器は本当に費用がかかりますけれども、とはいえ、更改するのであれば30年、31年しかないというのが実情かなと思っていて、教育予算のなかで大勢を占めるとしても、どこかで判断をしていかないといけないと、私としては思っております。</p> <p>その他、何かご意見等ございますでしょうか。</p> <p>先ほど市長がおっしゃったように、この予算をやるととんでもない額になるとわかったので、やはり委員会で充分、研究しなければならないのかなと思いました。東京のプログラミング教育の先進校へ、研修に行かせていただいた時に、その学校はほとんど費用をかけずにすべてのPCを揃えているということでした。可能かどうかわかりませんが、我々も研究してそういう方策を立てていけたらと思っております。おそらく大阪府内でもそういった取り組みはされていないので、本市が最初に実現できたらと思います。</p> <p>そういうことも言いながら、やはり一番こだわるのは学校と時間の問題です。学校に支援員がいるかいないかで、全く違うかと思えます。それも働き方改革の問題になるかと思えますが、先生方が実際に図書室にいらなくても、支援員の方がおられるだけで、子どもたちが本を借りられるようになります。これについては是非、全校に配置できるような形で進めていただきたいなと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>確かに、図書室の支援員の方については、私も保護者の方、市民の方からお話をいただきます。祭りなどに参加していて、保護者の方から話しかけていただいた時には、声が挙がるお話の一つで、保護者の方にとっても非常に待ち望まれていることなのかなと思います。</p>

	<p>PCやタブレット機器に費用をかけずに、という側面で言いますと、10年ほど前に、ある自治体が初めてタブレット端末を全小学生に導入し、その際に1円も使っていなかったと思います。公民連携になると思うのですけれども、公民連携は非常に難しく、一概に、できる、できないということはないのですけれども、やはり多くの教育に対して、限られた予算のなかで、しっかりとした予算づけを行っていくと考えた場合には、民間企業とのコラボで前に進めるものがあるのであれば、これ以上望ましいことはないので、教育委員の皆様にもアンテナを張っていただきたい部分でありつつも、やはり、どちらかというとながら私が頑張らなければならない部分であるとも思っております。一概に、ここで何かあるとは申し上げづらいのですけれども、しっかり予算を見ていくなかで方策を見つけだしていければいいと、私も思っております。</p>
<p>教育長</p>	<p>我々、教育委員が先進校の教育現場を見てきたなかで、少し危惧していることは、公民連携のなかで、どこまでできるのかということ。その小学校は、色々な民間が入ってこられて、すべてのソフトが提供されて、そのなかで1年生から6年生までプログラミング教育を実践されている学校でした。研修してきたことを整理して、市長と意見交換させていただきながら、本市にとって、何がどこまでできるのか、また、どこまで可能なのかを見極めながら進めていきたいと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>おっしゃるように、子どもにとって、どういう教育であるのが一番いいのか、ということをお優先で教育委員の皆様にご検討いただいていると思いますし、おそらく東京等の公立校は、私立と非常に激しい競争関係におかれていて、特色を出さざるを得ないという側面もあるのかなと思っております。本市としては、特に若年層の人口が、人口ビジョンで思っていたよりも急速に減少しているなかで、子どもたちもたくさん子どもたちと一緒に学ぶというところも考えなければなりません。理想でいうと、学校を増やさないと間に合わないというような市も存在しています。そういう意味で言うと、山本職務代理がおっしゃったように、四條畷としては、英語教育は他市に比べて進んでいたり、あるいはプログラミング教育というところも、近隣に電通大学があるという立地条件にありますとか、様々な、子どもにとって有利な状況と、</p>

	<p>本市にとって強く打ち出せる部分というところをしっかりと見出して、対外にアピールでき、そして学ぶ子どもたちにもプラスになる現状を思い描くということが予算付けのなかにも必要になってくるのかなと思います。</p> <p>しかしながら、吉田委員のおっしゃった、スポーツの部分、社会教育の部分もちろん教育の一環でございますので、それも含めた形で、更なる政策にこれから臨んでいきたいというところと、重ねてにはなりますが、最終的には予算を調製して、市議会の皆様と議論をさせていただくなかで、市民の方の意見、議会の皆様の意見、教育委員会の考えというところの整理が一定必要になるのかなと思いますので、それも今後、会議で深めていただければと思います。</p> <p>その他、30年度当初予算の考え方について何かお考え等がございますでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p>
市長	<p>では、案件3の教育行政については、このあたりにさせていただければと思います。</p> <p>続いて、4点めの今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。</p>
企画調整課長	<p>次に、今後のスケジュールについてご説明いたします。</p> <p>まず、今年度末までの予定といたしまして、来年3月をめぐりに、第3期学力向上3ヶ年計画について、策定のご報告及び、教育大綱に関し、改訂案のご協議をお願いしたいと考えております。</p> <p>また、年度末以降については、教育環境整備に関しまして、活断層調査と公共施設の劣化度診断の結果を踏まえ、公共施設等総合管理計画の個別計画の策定するなか、南中学校の今後のあり方と小学校の再編整備の方針を固めるべく、適宜のご協議をお願いしたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>事務局よりスケジュール等の説明がございました。これにつきまして何かございますでしょうか。</p>

市長	<p>(意見なし)</p> <p>それでは全体を通して、何かご意見等ございますでしょうか。</p>
市長	<p>(意見なし)</p> <p>それでは、これをもちまして、平成29年度第4回総合教育会議を閉会させていただきます。本日はどうもありがとうございました。</p>